



長崎市立矢上小学校 学校だより
『笑顔が花咲く矢上小』

合い言葉「よく学び よく遊べ」

令和6年6月26日

NO. 12

校長 白水 聡

教育週間が始まりました



6月24日、教育週間が始まりました。期間中は、ぜひご来校いただき、子供たちの様子を参観いただければ幸いです。

左の写真は3年生の学習の様子です。紙芝居を読んでもらっている方は、東総合事務所の岩崎 相さんです。かき道にお住まいの濱田恒之さんとともに来校され、普賢山や普賢神社についてお話を聞かせてくださりました。校歌にも出てくる普賢岳の歴史や伝説を学ぶことは大変意義深いことと考えます。地域を知ること、ふるさと教育の入り口です。

右の写真は6年生の「八郎川慰霊の灯 防災授業」の様子です。木村武夫さん松尾裕介さんにお越しいただき、講話を聞かせていただきました。長崎大水害のことや、突然家の中に土砂が襲ってくる様子などを、映像を交えて分かりやすく伝えていただきました。災害の恐ろしさは、しっかりと子供たちにも伝わったことでしょうか。改めて「とにかく避難すること」の大切さを感じました。大雨も心配ですので、ご家庭でも命を守るための行動の仕方について話し合っていたいただければと思います。



二組のゲストティーチャーの皆様、どうもありがとうございました。
また子供たちの学びを支えていただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

暗唱検定「命のバトン」

教育週間にあわせて、講話の中で、右の詩を紹介しました。あいだみつおさんの「いのちのバトン」という詩です。ご先祖さまからの命のバトンを受け継いでいるあなたの命を大切に、精一杯輝かせてほしいと伝えました。

子供たちには、「この詩を覚えたら、校長室に来て暗唱してみましよう。合格したら暗唱認定証を渡します。」と伝えられています。

これは「暗唱検定」という取組です。日本語のよさにふれるとともに、声に出して読む力、記憶する力、何より、克服したときの達成感や自己肯定感も養われるはずです。

もしお子さんがチャレンジしていたら、ぜひ聞いていただき、励ましてくださりますようよろしくお願いいたします。

また、言葉が難しいときには、補足説明していただけるとありがたいです。

たくさんの子のチャレンジを校長室で待っています！

「いのちのバトン」

あいだみつお

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうして数えてゆくと
十代前で千二十四人
二十代前では？
なんと百万人を越すんです
過去無量のいのちのバトンを受けついで
いまここに 自分の番を
生きている
それがあなたの命です
それがわたしの命です